

2010年度

科目名	仏教学			
担当教員	貫名 讓			
配当	教育4		コード	25090
開期	通年	講時	火曜日5限	単位数 4
授業テーマ	(前期)『歎異抄』にみられる親鸞の仏教観 (後期)『御文章』(お文)からうかがえる蓮如の無常観			
目的と概要	<p>(前期) 親鸞に大きな感銘を受けた唯円によって著された『歎異抄』を読みながら、その中に表される親鸞の仏教観をうかがっていききたいと思います。『歎異抄』は親鸞の書いたものではありませんが、前半部分は親鸞の言葉として表されていますので、言葉の一つ一つに親鸞の心が如実に表されていると思います。後半部分は、親鸞の教えを唯円なりの解釈でもって表現していきます。前半の文章も後半の文章も、それらは、現代にも生き生きとして語りかけているように感じられます。本講義では、『歎異抄』の前半部分(第1条～第10条)を読みながら、親鸞の仏教観に触れてみたいと思います。</p> <p>(後期) 『御文章』は『お文』とも呼ばれますが、これは蓮如が人々に送った手紙のうち、80通ほどをまとめたものです。室町時代に活躍した蓮如は、手紙を通して親鸞思想を平易に人々に説き示しました。信心・念仏・往生など、難しいと思われがちな親鸞の思想を、相手の立場に立って、重要なことを何度も何度も言葉を換えながら語りかけていきました。それは当時のみならず、現代にも大きな影響を与え続けています。そこで『御文章』の中からいくつかを読み、蓮如がどのように親鸞思想を受け止め、そして伝えていったのかを見てみたいと思います。</p>			
成績評価法	総合評価(平常点・レポート課題の提出)			
テキスト	(前期)歎異抄／梯 實圓解説／本願寺出版社編 (後期)聖典(入学時に配布されたもの)			
参考書				
履修に当たっての注意・助言				
講義計画				
<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：講義概要と講義の進め方 2. 『歎異抄』の概略 3. 序：唯円の思い 4. 第1条：信じる心とは 5. 第2条：よきひとのおほせを聞いていく 6. 第3条：善人よりも悪人の方が救われる(!?) 7. 第4条：小さな慈悲と大きな慈悲 8. 第5条：念仏は先祖供養ではない 9. 第6条：私(親鸞)には弟子は一人もいない 10. 第7条：念仏者は何ものにも妨げられない 11. 第8条：念仏は私のものではない 12. 第9条：念仏を称えても喜びの心がわいてこないのはなぜ？ 13. 第10条：ありのままの心 14. まとめ 15. 課題 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：講義の概略と進め方 2. 蓮如の生涯 3. 『御文章』(お文)の内容について 4. 念仏と信心 5. 「後生の一大事」とは 6. 阿弥陀仏による救済(他力) 7. 「たすけたまへとたのむ」とは？ 8. 仏恩報謝の念仏 9. 無常観(1) 10. 無常観(2) 11. 女性の往生について 12. 蓮如の目指したもの 13. 蓮如が及ぼした影響 14. まとめ 15. 課題 				